



Weekly Report

国際ロータリー第2750地区 東京多摩グリーンロータリークラブ

1991~1992年度クラブ目標 “親睦と奉仕の流れを創ろう”

第79回例会報告(5/27)

【夜間例会】

特別代表 由井 重光

司会 SAA 菊地 敏

☆点 鐘 会長 田中 實

☆ロータリーソング 「奉仕の理想」

ワグナー 海野 栄一

☆会務報告 会長 田中 實

*調布RCが本年度の特別重点事業RCとして表彰を受けましたが、その具体的事業として「多摩川野鳥の楽園」を作成し、クラブ員に公開することになりました。

場所は調布グリーンホール

日時は6月13日(土)、午後4時から

会費は一人5,000円 夜は懇親会も行われますので、一人でも多くの会員が参加して下さい。

*本年度地区大会の決算が決まりクラブ員一人当たり800円の割合で予算が余りました。



これは全てロータリー財団へ寄付されました。また米山奨学金へ50万円が寄付されました。

*ロータリー財団への当クラブの一般寄付が6月30日現在 5134ドル一人当たり119ドルになっております。

*米山奨学金寄付が 932,000円、一人当たり21,674円になりました。

*当クラブより推薦しております添田恵子さん親善学生の選考が第3次面接試験まで進み合格しています。

☆幹事報告 幹事 宮本 誠

*三週間ほどヨーロッパを旅行し、その間、ローマとパリのRCでメイクアップをしてきました。ローマの夜間例会は午後9時から翌朝1時頃までに及ぶ大変な例会でした。



*他クラブの例会変更のお知らせ

・東京南RC

例会費を4,800円に変更(現行4,300円)

例会時間の変更

18:00 ~ 20:00 1992年10月29日(木)

1993年3月25日(木) 5月27日(木)

会場は東京会館11階ゴールドルーム

(休 会)

1992年8月13日(木) 12月8日(木)

1993年2月11日(木) 4月29日(木)

☆委員会報告

★親睦委員会

城倉 正博

ニコニコBOX

宮本 誠 お蔭様で充実した旅行ができました。

猪俣 末男 法人会より感謝状をいただきました。

伊神 稔 ゴルフの調子が悪いので困っています。

赤尾 恭雄 宮本幹事ようこそ無事に。

中山順一郎 誕生祝ありがとうございます。

小島周一郎 先日は誕生祝ありがとうございました。

松原 健 スクラッチ会の二度目の優勝をしましたので。

北村 幸彦 今日は松原さんのゴルフが大変参考になりましたが、マネできないのが残念です。

菊地 敏 先月は天国、今月は地獄、さて来月は？

風間 茂穂 スクラッチ会欠席と、来週から2週間出張で欠席しますので。

海野 栄一 ゴルフが下手になりました。ところで宮本さん久しぶりですね。

城倉 正博 楽しいスクラッチ会でした。

橋本 幸夫 親睦旅行に参加できず残念です。

橋口 洋三 宮本幹事が無事帰ってきましたので。

以上 合計 35,000円

【親睦旅行について】 城倉 正博

来週の親睦旅行の日程表を配布させて頂きました。

・6月3日(木) 例会終了後バスで目的地へ宿泊は「熱海ニューさがみや」

午後6時より懇親会

・6月4日(木) ゴルフ・釣・その他に分かれて行動

午後4時頃現地発、午後6時30分クラブ事務局前到着予定。

★出席委員会

[出席報告]

松原 健

	総数	出席	MU	欠席	出席率
本日報告	43	28	0	5	87.80%
前回訂正	43	28	5	8	80.49%

※出席免除者2名

[先週のメイクアップ]

北村 幸彦 5/26 多摩RC

宮本 誠 5/25 ハリRC

高野 範城 5/20 分区青少年委員会

津守 弘範 5/19 多摩RC

中山順一郎 5/26 多摩RC

[欠席届者]

萩生田茂夫、奥木 博勝、津守 弘範

[欠席者]

中山 恒武、吉原光太郎

先週の出席率が大変悪かったので、6月はぜひ100%出席を目指して、出席に努めて下さい。

★青少年奉仕委員会

高野 範城

5月20日午後6時より東分区の青少年奉仕委員長会議が催され、各RCの本年度の活動状況が次のとおり報告されました。

(1) 府中RC

①少年消防団の老人ホーム慰問への援助

②あすなろ学級(障害者)の一日旅行

③青少年タウンフォーラム

(2) 調布RC

①親子のハイビジョンコンサート

(3) 多摩RC

①中学生弁論大会の援助

②少年サッカー(ハワイ交換)

(4) 狛江RC

①少年野球の援助

②バレーボール大会

(5) 稲城RC

①子ども会への援助

②花みずきの木贈呈

(6) 武蔵府中RC

①少年野球への援助

(7) 狛江多摩川RC

①障害者への机贈呈

- ②障害者と共に丹沢旅行
- (8) 多摩グリーンRC
 - ①青少年月間の卓話
 - ②学校五日制の意味するものについて卓話
- (9) 調布むらさきRC
 - ① 300万基金

★次年度会長報告

赤尾 恭雄

本日(5/27)午後5時より、臨時被選理事会を開催。新年度の予算案が審議され、新年度理事によって最終案が決定されました。

この予算の内訳につきましては新年度のクラブ協議会の席上で説明させていただきます。



交換学生(野沢麻衣子)近況報告

風間 茂穂

5月4日派遣交換学生、野沢麻衣子さんより、ミシガン便りが届きました。

現地は春にはまだ遠く厳しい自然の中で、元気に修学しています。現地のRCも水曜日が例会で「日本について」スピーチをしたそうです。学科は仲々大変なようですが、最近の一番のニュースは何と言ってもロシアのミスター・キングの事件だとのこと。



【卓話】

『バブルの崩壊と今後の進路』

戸田 昭寿

バブルが崩壊し、かつての価格基準が根底から覆されようとしています。土地の高騰は戦後処理の昭和20年代を別にすれば、30年代から始まっています。昭和32年、36年、45年、



48年、55年といずれもピークを迎え、その後沈静化し、また再び高騰するという繰返しを行いつつ、今回のバブル現象といわれる時代を迎えました。

日銀の無策とも思える異常に長い低金利時代を迎え、担保さえあれば業績等に関係なくしかも担保価格以上の貸出しをした金融機関、それでも担保価値が上昇すればよし、またわずかの期間であがったので、それも可能であった。大企業は設備投資の予定がなくとも超低金利で行えるエクティファイナンスを次から次へで行い、その資金で株を中心とした投機にのめりこんでいったのである。市場では企業が互いに株の持合いをし、株券が市場から吸収されどんどん品薄になっていき、そのためにまた上昇してしまうというような現象がおきていたのである。これは、タコが自分で自分の足を喰っている現象と全く同じことに誰も気がついていなかったのである。

だが、これが企業にとって予想以上のインパクトを以て現れてくるとは、誰が予想したであろうか。低金利でダブついた金は、国内のみならず海外へも進出して行くという、かつての高騰時に見られなかった現象が次から次へと起きているのである。(中略)

よって、土地政策の概念を根本的に変えなければ、また同じ轍をふむ可能性が大であり、資産格差の拡大は簡単に解消できないほど大きく、もはや従来の方法では許されないくらいの政治問題であるとの認識から土地税制の抜本的見直しが行われることになったのである。

戦後のシャープ税制以来の大転換を図ったのである。これができたというのは、政治家にもかなりの危機感が高まっていたのではないだろうか。少なくとも今迄のような政策ではどうにもならないほどひどい状態になってしまっていたことは誰の目から見ても明らかである。何れにしろ今回の改革は、徐々にではあるが、思った以上のインパクトとなつてきいてくるであろう。従って従来と同じような感覚で対処しようとすれば、とんでもない間違いを犯すことになりかねないのである。

特に「土地の保有に担税力を認める」こと

としたのは、従来からの方針を脱し、一步欧米型に近づいたような気さえするのである。

欧米では土地の評価は市場価格を原則とし、その価格は利用価値に見出されるのであり、日本の様にバブルを含んで高騰するという事は考えられないことである。しかし、一部日本のバブルの輸出によりハワイ、ゴールドコーストをはじめとして世界各地に土地の高騰した地域もあり、現在はその後遺症で苦しんでいるところさえ見受けられるのである。

さて、その改革の中身はどんなものであろうか。その成果はどうであれ、保有コストという概念を取入れたことは、従来の課税理論を逸脱したことであり、その点において、評価できるのである。土地保有税ともいふべき「地価税」を柱に、種々の政策がもりこまれている。「保全すべき農地（生産緑地）以外の宅地並み課税」の問題は首都圏の農家を直撃し、予想どおりというべきが、生産緑地を選択した割合はかなり小さかった。将来の宅地供給の源泉ができたというべきか？

さらに、特定市街化区域内農地の納税猶予の不適用、市街化農地の評価減の廃止など、特に大都市圏の特定市街化農地の所有者は、たとえ、負担軽減措置が盛り込まれたとしても増税になったのである。これらの所有者は本格的な対策に取り組みなければ、従来のように所有保全を維持していくことは叶わなくなるであろう。

路線価の公示価格の80%への引上げと課税最低限引上げ、長期譲渡課税の税率引上げ、地方税においても、特別土地保有税の免税点の引下げ、固定資産税の評価割合が、対公示価格の70%への引上げ（平成6年度）という具合につぎから次へと打ち出されており、これが他の土地対応策ともいふべき行政指導や政策と相まって、相当にきいてくるようである。少なくとも従来からの政策から180度転換したことは間違いのない事実であり、これを見

誤ると致命的である。

しかし、これらの政策は必ずしも資産格差の解消を目指したものとはいえず、その面においての評価は無理であろうが、かつてのようなバブルの再来を防止するという点においては評価できよう。

即ち、過去に起きたような土地の高騰は極部の特殊な例を除いてはありえようがなく、必然的に土地の価格は欧米型のようにその利用価値に見出さざるを得なくなるはずである。そうなると、当然日本の株式市場においても、その株価の形成は従来とは必然的に異なってくるのは自明の理であり、かつてのような高度成長が望めなくなったことと相まって、欧米型のような株価形成に近づいてくると思われ、取敢えず日本は欧米との中間を目指す動きになるのではないだろうか。問題はそのような経験のない未曾有の出来事に証券マンの頭脳が陳腐化してしまったことである。再教育により従来とは異なった対応をしなければ、その世界では生き残ることは困難であろう。

土地も、もう底だ底だといわれながら下げ続けている現状を見ると、まだまだである。利用価値として計算できるようにならなければ、本格的な需要は起きて来ないだろう。

既に、時価が路線価を下回るという、いわゆる逆転現象が起きており、バブルが都心の商業地から始まり、住宅地、郊外へと波及していったように、今度もその逆転現象は都内において始まり、今ではかなりの広範囲において目に付くようになってきている。いずれ多摩あたりまで波及してくるのであろうか。

国税庁は今年、相続発生時に地価の逆転現象が生じている場合については、時価による申告を認めるという方針を打ち出しており、今後その時価ベースでの申告がどのくらい増えてくるかが注目される場所である。

ともあれ、本年8月末頃に公表される路線価がどう出てくるか興味を引くところである。



東京多摩グリーンロータリークラブ

会長：田中 貴 副委員長：梶田文夫・委員：赤尾新雄
幹事：宮本 誠 遠藤二郎・津守弘範・橋口洋三
会報委員長：足立 清太郎

※例会場 多摩モゴラコート7F サブアイヤガロネットルーム

事務局：東京都多摩市落合547
多摩センタービル7F
TEL 0423(72)6463/FAX 0423(72)6491

※例会日 毎週水曜日12:30 月の最終例会18:30